

インターバンクの声（2017年7月28日）

FOMCの声明が思ったほどタカ派的でなかったためにドル売りが進んだ昨日の東京市場だったが、円相場も昼過ぎに付けた110円79銭から徐々にドルが買い戻された。

ドルは円だけでなく、ユーロや豪ドルに対してもFOMCの発表前の水準から100ポイント超も売りが進んでいたため買い戻しも入りやすく、米長期金利が上昇に転じ始めたことも後押しとなっていた。

ロンドン市場では一旦ドルの上値が重くなったが、ニューヨーク市場では、朝方に発表された6月の米耐久財受注には反応薄だったが、その後もドルの買戻しは続いた。ただ、昼過ぎになって米株式市場でナスダック総合指数が急落し始めたことや、ムニューシン米財務長官が為替操作国に厳しく対応するとの姿勢を示したことなどからドルが急落。

せっかく111円70銭台まで回復していたドルは再び111円を割り込んだ。それでもニューヨークの終盤には111円30銭前後に戻しており、110円台後半ではドル買い、112円前後ではドル売りで良さそうだ。

反応薄だったものの耐久財受注の数字は決して弱くなく、今晚の米GDP速報値も強めの発表となれば来週末の米雇用統計に向けて再び市場がドル強気となるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。